

見 目

2025. 2. 17

「おにいちゃん、おいしいかい？」と声をかけられた。おにいちゃん？あっけにとられた。そこは、とある中華料理店だった。福島に昔からあるお店である。注文したものをほぼ平らげようとしているタイミングで、背後から声がした。まず、「ありがとうございます。おいしかったですか？」と家人に話しかけてきた。そして次に、私に対して「おにいちゃん、おいしいかい？」ときた。あまりのことに、多少、動揺したのか、うまく言葉を返せなかった。「おにいちゃん」いったい、この人は、人のことをいくつだと思っているんだ。声の主は、このお店の名物女主人である。

「園長先生、大学生かと思いました」そう職場で言われた。その日は、パーカーを着ていた。それでだろうか。いや、今までもパーカーを着ていた日はある。後ろから見ると、大学生に見えたというのである。ここで、考えた。中華料理店と職場での共通点は何か。それは、後ろ姿である。後ろから見ると、実年齢とかけ離れるほど、妙に若く見えるらしい。自分では、自分の後ろ姿を見ることがないのでわからなかった。

「〇〇歳ですよ」あるとき、ソフトテニスをやっている中学生の親御さんとお会いした。その中学生は、私と同じ中学校だった。「お父さんは、〇〇中学校ですか。私も〇〇中学校なんです。先輩と後輩ですね」すると、「〇〇歳ですよ」と返ってきた。そこには、私が、あなたの後輩のわけがないでしょという意味合いが込められていた。私のほうが、年下だと思ったらしい。ここでまた考えた。今回は、後ろ姿ではない。正面＝顔から判断したはずである。さすがに、大学生とは思ってはいなかっただろうと思う。

昔から、実年齢よりも下に見られることがよくあった。そのことで、特段、支障をきたすことはなかったし、不利益を被ることもなかった。ところが、校長になってからは、少なからず影響が出るようになった。校長に見えないという問題である。ただし、これは若く見える故なのか、校長としての風格や威厳、落ち着きなどが無いことが原因なのかはわからない。さすがに、「私はどうして校長に見えないのでしょうか」と相手に聞いたことはない。

幼稚園に来てからはいい。職場での唯一の男性が私である。玄関先に出ていくと、少なからず戸惑いはあったとしても、「ああ、この人が園長か」と認識してもらえる。いや、もしかしたら、新しく用務員さんを雇ったと思われているのかもしれない。

中華料理店の名物女主人の「おにいちゃん」には参った。苦笑するしかなかった。若さを維持しようと特別に努力していることは何もない。そもそも若さを意識もしていない。無理に若く見せようとすると、不自然になる。若作りになってしまう。自然のままだがよい。

正面もそうだが、後ろ姿が若く見えるのは、よく考えるとわるいことでもないように思えてきた。正面の顔は、いろいろとお手入れもできるが、後ろ姿となると、髪型と姿勢ぐらいだろうか。今まで、自分の後ろ姿を意識したことがなかった。今度、研究してみようかと思う。あと何年ぐらい、大学生やおにいちゃんと言ってもらえるだろうか。そして、見た目が実年齢に追いつく日はやってくるのだろうか。ちなみに、この中華料理店は、実はカレーが美味しい。